

社会福祉法人カリヨン子どもセンター News Carillon No.58

大丈夫。一緒に考えよう。
ひとりぼっちじゃないんだよ。あなたは大切な人。

小さな希望が残る

理事・弁護士 坪井節子

カリヨンのシェルターの創設期、あらゆることが暗中模索、試行錯誤、人手不足、資金難の日々だったころ、やってくる子どもたちの命を支えるために、職員もコタンも理事も総出で、子どもとの悪戦苦闘を繰り返していた（今の現場も、たいして変わりはないのだけれど）。そんな中で出会った子どもたちと、5年後、10年後に再会する機会に恵まれると、相変わらずの苦労を抱えながらも、「どっこい、生きてるよ。」という姿を見て、胸が熱くなる。

私たちに、何かができたということではない。苦しみを抱えて、行き場がなかった時期のほんの一瞬、暴風雨の中を、共に過ごしたということだけなのだ。しかし、その鮮明な痛みの記憶と小さな希望が、私たちの中に残る。その子どもが、後に続いたに違いない茨の道を踏み越えて、成長して、生きて、目の前に現れてくれるという喜びなのである。（中略）

「特定妊婦は妊娠中支援の選択肢がなく、臨月まで野に放っておくしかない」と言われ、ショックをうけた20年前。シェルターを利用し、その後助産施設へ移っていった10代の妊婦さんが産んだあのときの赤ちゃんは成人しているはずだ。

危険ドラッグや睡眠薬の過剰摂取がやめられない子どもたちに、どうか命を繋いでほしいと願う日々。子ども、若者のOD（オーバードーズ）は、世代が変わっても使用するものが危険ドラッグから市販薬に変わっただけで、深刻な問題であり続けている。

児童福祉や精神保健福祉の選択肢からはじかれ、シェルターからの出口が見つからない子どもたち。この子どもたちのためにつくった"カリヨンあしたの家"だが、わずか3年で事業終了となった。子どもたちにも職員たちにもつらい思いをさせてしまったことは、法人の力不足としかいいようがない。なお、あしたの家ですごしたケアリーパーたちとは、その後もアフターケアとして交流が続いている。

「生まれてきてよかったね」「ひとりぼっちじゃないんだよ」「あなたの道はあなたが選ぶ」。私たちに、そのことを伝えるのがやっとだけれど、それを聞いた子どもたちが、何とか生きていてくれることを信じたい。20年を経て、これからも新しい子どもたちのニーズに応えながら、カリヨンの活動が続いていくことを、心から願っている。👤

カリヨン子どもセンター20周年記念誌「坪井節子『素敵な鍼灸師』」より一部抜粋、改稿して掲載しています。記念誌は2026年3月完成予定です！

INDEX

- | | | |
|---------------------------------|----------------------|----|
| 👤 小さな希望が残る | 理事・弁護士 坪井節子 | P1 |
| 👤 カリヨンとびらの家 | 延長で！／見てください～こんなに可愛い！ | P2 |
| 👤 カリヨン茜の家 | 架空の一日 | P3 |
| 👤 カリヨン木かげの家 | 夏の終わりのドライブ | P4 |
| 👤 カリヨンタやけ荘 | 甘露とモフモフに癒されて | P5 |
| 👤 東京弁護士会もがれた翼パート29『スクウェアルーツ』ご報告 | | P6 |
| 👤 #全国の仲間たちとつながりたい | | P7 |



とびらの家

「延長で！」

今年のとびらの家の夏外出は8月下旬、昨年度も実施して好評を得ていた大型でいっぱい遊べるラウンドワンに行きました。こうしたイベントを、ご寄付により実施できましたことに感謝申し上げます。

早起きしてホームを出発したのにもう烈日。「暑い」という言葉だけでなく、「肌が痛い」という声も出るほどでした。やっとこさお店に入ればもう大丈夫かと思いきや、室内にもかかわらずエアコンのないエリアもあり、熱中症に気を付けながらスポッチャ、そしてカラオケも堪能しました。ビリヤードやスケートなど、初めての体験に挑戦した子どももいました。初めてビリヤードをやってみた子どもは、積極的にやり方を職員に聞いて習得しようと頑張り、日常ではなかなか持てない良い時間を過ごすことができました。



普段は、とびらの家の中ではあまりコミュニケーションを取り合っていなかった子ども同士もこの機会に関わることもできました。特に、カラオケは皆楽しく盛り上げており、歌が得意な子どもも、そうでない子どもも仲良く気持ちよく歌うことができていた様子を見て、認め合うことができるってすごい、さすがだなと思われました。

終了時間に近づきましたが、まだ遊びたいという意見が多く、これまで行事にあまり参加していなかった子どもからも、「カラオケ延長で！」という言葉が出てきて盛り上がりました。交通機関等の時間の関係上、延長は実現せず帰宅することにはなりましたが、もっと遊びたかったと名残惜しさを感じられる贅沢よ。これでまたきっと次も参加してくれるんじゃないかなと思いました。今年も満足度の高い、良き夏外出になりました。

(とびらの家職員 當麻)

「見てください～こんなに可愛い！」

そうなんです……とびらの家の【アボカド】。水耕栽培中です（実は2代目。先代の写真は下記）たまたま職員3人で冷蔵庫を覗いたあの日。ゴロンと目にとまったのです。



「アボカド使った方がいいね」全員賛成。さてさて……サラダ（和風・イタリアン・韓国風と万能）、ポキ丼、タコライス、グラタン？ レシピで発見の肉巻きも美味しかったです。生でも、炒めても、焼いてもいいですね。ちなみに私は塩昆布和えが好物です。

主役になったり、脇で盛り上げたりといつも良いお仕事をありがとうございます。あの日には人気のタコライスで活躍してくれましたね。

手に取ると硬さといい、色合いといい、私好み。もう少し柔らかい方がいい、と言う者。開けてみないと分からないのが困っちゃう、と言う者。

さあ！ 丁寧に包丁を縦に1周、ぐるりとひねって……種。無傷で取り出せた喜びから、思わず「育てましょう」と。その日から強引に水耕栽培へと突入。水の交換時に、上下をひっくり返されて苦しい思いをさせたのも一度や二度ではなく。苦難を乗り越え元気にここまで育ててくれました。まるでとびらの家のお兄さんたちを見習ったかのように。見習うだけにとどまらず、今度はメッセージを発してください。

では、【アボカド】より皆さんへ。



↑水耕から地植えへ。すくすく育つ初代さん

『これからいろいろな味を出して進んでください』
色々な事に興味を持ち挑戦、体験し、「いい味出してるね～」なんて言われるような人になって欲しい、と思います。勉強したことが直接仕事には関係がなかったとしても良いのです。勉強したことが趣味となっても良いのです。仕事があって趣味があるって素敵なことです。ここでの生活経験から探してみたい、と思います。

アボカドさん。また今日も私の手助けをお願いします。あなたのおかげで食卓が華やかになります。👩‍🍳 (とびらの家職員 小久保)

茜の家

架空の一日

「もう今年終わるじゃん」と利用者さんが嘆く今日この頃、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

今回は、複数の利用者さんの実際の発言を抜き出した、シェルターでの架空の1日をご紹介します。利用者さん同士のやり取りを記載する際は、実在しないAさん、Kさん、Nさん（茜の家なので）に登場してもらいます。

さあ、夜が明けました。大抵、朝日の何時間も後に、利用者さんは目覚めます。

9:00 起床。「いい天気だ」と話す。職員から眠れたかを聞かれると、「うん、よく寝た」と返答。朝食を食べる。

11:00 「スーパーに行きたい。お菓子買いたい」と話す。職員と買い物に出かける。Aさんは「量ではなく質をとる」と話し、好きなお菓子を1個購入。Kさんは、電卓で計算しながら、お小遣いを使い切る量のお菓子とアイスを購入。「お小遣いって来月分から天引きできないの?」と聞き、そのようなシステムはないと職員から返答がある。買い物を済ませ帰宅。購入したアイスを食べる。初めて食べたアイスがとても美味しかったため、「何でもっと早く出会わなかったんだ」とコメント。

13:00 ラーメンを作る。分からないことは職員に聞きながら、自分で作る。「初めてこんなに自分で作った。美味しい」と感想を述べる。食後、書庫で漫画や小説を借りて、自分の部屋で過ごす。

15:00 Kさんの児童福祉司さんが、教科書と課題を届けてくれる。あまりにも課題が多いため驚く。Aさんから「先生が課題を出してくれるってことはいいことだよ」と励まされる。



17:00 Nさんが「一緒にゲームしない?」と全員を誘い、職員も一緒に人生ゲームをする。Kさんは、「オリンピック選手になるんだ!」と言いながら進める。Nさんは「総理大臣になるんだ!」と話す。Aさんが「裏金か?」と

冗談交じりにからかうと、Nさんは「クリーンな政治家だから」と返答。

人生ゲームを終え、将来の話をしていると、「自由に楽しく生活したい」と話す。

その後、テレビゲームのバドミントンをして遊ぶ。Kさんの叫び声に驚いたNさんは「寿命が2秒くらい縮まった。2秒返して欲しい」と口にする。負け続けたAさんは「悔しいから1人で修行しようかな」と呟く。

19:00 「お腹空いた〜」と話し、夕食のたこ焼きを作る。Kさんは「待つのが苦手なんだよね。すぐひっくり返しちゃう」と話し、Nさんに「焼いてるうちに丸くなるから大丈夫」と助言される。Kさんのたこ焼きがお皿から落ちると、「活きが良かったんだよ」とAさんがコメント。「お腹いっぱい」と食事を終える。食後は、自分が使った食器を洗う。

21:00 入浴するため、Nさんがお湯張りをする。しばらくして、お湯張りが完了していると職員から伝えられると、「いつ鳴ってた?全然聞こえなかった」と驚きつつ入浴。入浴後、髪を乾かさずにリビングで話をしていると、Aさんから「早く乾かした方がいい」とお勧めされる。

22:00 音楽番組を視聴。韓国のグループが、大雨で濡れながら歌っている様子を見てAさんは、「もう日本に来なくなるかも」と話し、Kさんは、「今頃ネットは大騒ぎだ」とコメント。その後、推しの映像を何度も見ているNさんから「愛でていい?ごめんね。きもいよね」と言われたAさんは、「もっとやばい人いるから。まだまだぬるい」と笑いながら返答。

23:00 就寝時間。Kさんが「寝たくない〜。2人部屋ならいいのに〜」と話していると、「でも部屋はプライベート空間だから」とAさんに言われる。Nさんは「廊下に寝ればみんながトイレに起きたタイミングで毎回遊べる」といたずらな笑みを見せる。「おやすみ」と手を振って自分の部屋へ……。

ご紹介したような穏やかな日もあれば、「自分で自分のことが嫌になる」と泣きながら話す方がある日もあります。利用者さんが笑ったり泣いたりするシェルターでの日々が、皆様の温かいご支援によって守られていることに、深く感謝申し上げます。🙏
(茜の家職員 丹野)

木かげの家

夏の終わりのドライブ

この夏は、若者たちと過ごす時間の中で、改めて「顔ぶれによって日々の景色が変わる」ことを感じた季節でした。木かげの家では、入居する若者たちの構成や雰囲気によって、活動の中心ががらりと変わります。7月までは活発なメンバーが多く、外で体を動かすことを楽しみにしていました。

連日厳しい暑さが続いていましたが、「守備練（しゅびれん：野球の守備練習）したい！」「サッカー。」という声に背中を押され、熱中症対策を万全にしたうえで、キャッチボールやサッカーを実施しました。汗を流しながら走り回り、大人の方が先に音を上げることもしばしば……「大人に付き合う」ことを人生の中で強いられてきた若者たちは、優しく運動を切り上げてくれたのでした（すまんのう、若者たち）。しかし、外遊びから帰って、うたた寝している若者の姿を見ると、健やかだなあ、とも思えました。

一方、8月には入居者の顔ぶれが少し変わり、外遊びよりも室内で静かに過ごす時間が増えました。そんな折、ありがたいことに、ご寄付にて「一人あたり一万円を自由に使ってよい」という機会が生まれました。若者たちに希望を尋ねると、「ドライブに行きたい！」「カラオケ行きたくない？」「〇ツク食いたい」という声が上がりました。

「ドライブ」……！ 勤めて10年強の中で初めて聴いた単語！ 予想外のリクエストでしたが、外に出て自然を感じたいという思いに触れ、胸が熱くなりました。行き先は「絶景を見たい」というリクエストを採用。海を見に「江の島」へ行くことに決まりました。

当日はあいにくの雨予報。それでも若者たちは楽しみにしており、朝からそわそわ。出発の頃は曇り空でしたが、江の島の高台に着くころには、雲の切れ間から青空がのぞき、海が透き通るように輝きはじめました。その光景を見た瞬間、若者たちの顔がぱっと明るくなり、「うわあ……」と声が漏れました。どんなに言葉を重ねても、思わず漏れる感嘆のため息には敵わないこととてありますよね。

昼食は江の島名物の生しらす丼やサザエの卵としらすなど、それぞれが興味のあるものを選び、初めて

の味を体験しました。「これなに…？」とサザエの肝に眉間を寄せる若者。「生しらす、他の食材の味が濃すぎてよくわかんなかったです」と不満を漏らす若者。初めての味は、美味しいばかりではなかったようですが、これもまた一興。

車を走らせ夕暮れ時、リクエストのカラオケへ。マイクを回してみんなで一曲を歌ったり、いろいろな採点機能を試してみたり、時にはライブが始まったりとカラオケルームには歌声と笑いが満ちていました。

夕食は某ハンバーガーショップでテイクアウト。中にはセットを2人前ぺろりと平らげた若者もいました。たまにはジャンキーなものを食べたくなるのが人の性。

道中の車内では、好きなCDを流し、カップルを見かけて冷やか（車内だけでですよ！）、車窓に流れる景色を見つめながら、気がついたらうたた寝して……それぞれが楽しんでいました。時に車内が静かになることもありましたが、ふと「ドライブってこんなもんだったな」と思うのでした。たまに思いついたことを喋って、ダラダラして、なんとなく寝ちゃって……生まれた環境から辛酸を舐めに舐めてきた若者たちに「日常」を届けられたらどうか、若者たちにはこの「日常」がどう響くのだろうか、と、ぼんやり考えた帰路でした。

木かげの家に入居せざるを得ない若者たちは、さまざまな背景や課題を抱えています。それでも、こうした一瞬の喜びや発見が、ふと「生まれてきたことへの疑念」を頭の片隅に追いやり、「この世界をもっと味わってみてもいいかも」という灯になってくれないかなあ、と少し期待してしまいますね。

ちなみに、後日、生しらす丼を食べた若者は子ども担当弁護士さんにだけ「生しらす、ずっと食べたかったんですよ」と語ったのを伝え聞いて、「なあんだ、行ってよかったじゃん」と思ったのでした。

この一日は、単なる「レクリエーション」ではなく、若者たちが安心して自分を表現し、新しい世界に触れるための大切な時間となりました。改めて、支援して下さる皆さまのおかげで、こうした体験を届けられていることに心より感謝申し上げます。

これからも、若者たち一人ひとりの歩幅に寄り添いながら、小さな「楽しい」が積み重なっていくような日々を大切にしていきます。どうか今後とも温かく見守っていただければ幸いです。🍀

（木かげの家職員 成澤）

夕やけ荘

甘露とモフモフに癒されて

初めまして！ 夕やけ荘には2019年より日勤でお手伝いさせていただいている山口です。7月より宿直で入るようになり2ヶ月が経ちました。日勤だけでは感じとれない夜の皆との時間や寝る前の時間が私は大好きです。一日の話を聞いたり一緒に食事をしたり……これからも大事にしたい時間です。

そんな山口さんと、私、早野で先日子どもたちと外出行事に繰り出しました。

ご寄付をいただき、子どもたちと一緒に、夏のお出かけ。去年は、映画鑑賞とイタリアンレストランでディナー。今年は……フルーツがいっぱい食べたい！！果物狩りもいいけど、「スイーツパラダイス（スイーツやフルーツの食べ放題コースがある人気のカフェです）」に行こう！早々と、スイーツパラダイスの予約を取り、ウキウキです。

そして当日。身支度に時間がかかってしまい、駅までダッシュ！なんてことも。何とか予定通りの電車に乗ることができ、上野に到着。さすがパンダちゃんの街。駅構内のパンダグッズにひかれ、ガチャガチャを回して楽しむ子も。

最初の目的地、スイーツパラダイスに着きました。たくさんのケーキが並ぶショーケース。そのとなりに、スイカやメロン、マンゴー、もも、ぶどうたちも並んでいます。子どもたちは、食べたいものをお皿に盛りつけていきます。テーブルの上には、ところ狭しとたくさんのケーキや果物が並び、その光景にうっとり。



いただきます。何から食べよう、やっぱりマンゴーかな。口の中でとろける美味しさ。笑顔があふれます。さすがに全種類制覇は成し遂げられず、心残りでした。



お腹が満たされたあとは、サモエドカフェへ。真っ白なモフモフの毛に覆われた大型犬サモエドが笑顔でお出迎えをしてくれました。かわいい！子どもたちは、サモエドにおやつをあげて、いっぱいなでたり、お気に入りのサモエドを抱っこして一緒に写真を撮ったりと、心癒される時間でした。



家の中だけではなく、子どもたちと一緒に出かけたことで、みんなの個性がより見られて良かったです。ご支援のおかげで、夏の終わりに素敵な思い出を作ることができました。ありがとうございました。

帰宅して数日、今度は冬の外出行事の計画が着々と組まれていく夕やけ荘でした。🐼

(夕やけ荘職員 早野
夕やけ荘ボランティア 山口)



2025年8月9日～10日、東京弁護士会子どもたちと弁護士がつくるお芝居「もがれた翼パート29『スクウェアルーツ』」が豊島区・あうるすぽっとで上演されました。ご来場くださいました皆様、応援くださいました皆様に深く御礼を申し上げます。

「もがれた翼」は、いじめ、虐待、非行など、子どもの人権に関するさまざまなテーマを弁護士、子どもたちが演劇を通じて発信する1994年から続く企画です。2002年上演の舞台『こちら、カリヨン子どもセンター』が、実際のカリヨン子どもセンター立ち上げのきっかけとなった、当法人の“ルーツ”のひとつです。

カリヨン子どもセンターは協力団体として、脚本の提供をはじめ、広報、舞台美術の制作、写真撮影などを担いました。当日には、職員らが会場ロビーにて募金活動を行い、2日間で243,337円の募金をいただき、また資料を配布させていただきました。カリヨンの活動の発信の機会をいただきました共催の東京弁護士会、豊島区に御礼申し上げます。



『スクウェアルーツ』で取り扱ったテーマは、「日本で暮らす外国にルーツをもつ子どもたち」。カリヨンの子どもシェルターあるいは自立援助ホームで出会う子どもたちにも、外国にルーツをもつ方が少なからずおられますが、このテーマに改めて触れ、「外国にルーツを持つ」と言っても、ひとり

ひとり全く異なる背景があり、直面している困難は国籍や在留資格の問題にとどまらず、実にさまざまであることを知りました。

～『スクウェアルーツ』あらすじ～

全世界配信のオンラインゲーム「マギア・コンティネンス」で知り合ったアンとBBIは、お互いが日本在住の高校生であることを知り意気投合します。しかし、それぞれ現実の生活では複雑な事情を抱え、つらい日々を送っていました。

アンは、日本とアメリカのミックス・ルーツをしていますが、アメリカ人の父親とは一度も会ったことがありません。ところが、母が病死し、ひとりぼっちに……。BBIは、幼少期に両親と共に来日し、日本で育ちました。日本語を学び、家族を支えて生活をしていましたが、在留許可の問題に直面……。

ゲームの世界と現実の世界、それぞれで出会う人たちにも、さまざまな意見や立場がありました。児童相談所、自立援助ホーム、弁護士らも登場します。アン、そしてBBのゆく道は……。



Photo by Satoshi Ohsaka

もがれた翼チームでは、2023年から約2年をかけて、当事者の方々からお話をきくなどして、今作の準備をしてきました。奇しくも日本中に、外国の方と共に生きていくことについてのさまざまな声があふれてる中での上演となりました。

複雑な制度や、他人の価値観は変えようがなくとも、知ることで、考えることで、自分の佇まいや見える景色が変わることはあるかもしれません。『スクウェアルーツ』の上演映像は2026年1月頃にDVD化、およびYoutubeでの公開が予定されています。ご関心をお寄せいただき、引き続き、このテーマについて考えるひとときをご一緒できれば幸いです。🎭

全国の仲間たちとつながりたい

子どもシェルター全国ネットワーク会議

「子どもシェルター全国ネットワーク会議」に加盟している法人数は、2025年11月現在24団体。19地域で21軒の子どもシェルター（自立援助ホーム等とのハイブリッド型を含む）が運営されています。「子どもシェルター全国ネットワーク会議」とは、この子どもシェルターを運営する団体同士で、新しく「子どもシェルター」を設置運営する団体の設立支援、経験交流、研修、連携、政策提言などを行っています。なお、カリヨン子どもセンターに事務局がおかれています。

日頃の連携や情報交換は、メーリングリストやオンライン会議で行われていますが、1年に1回、対面にて交流、近況報告、課題についての協議を行う全国会議を開催します。参加団体のいずれかが実行団体となって、開催地も毎年変わります。今年度の実行団体は、NPO法人つなご。2025年9月27～28日に「子どもシェルター全国ネットワーク会議 in HYOGO」が兵庫県尼崎市で行われ、カリヨンから職員、理事、子ども担当弁護士、ボランティアスタッフ等が参加しました。

こども家庭庁による行政説明、全国会議の総会等の後、テーマ別の分科会に分かれて協議をします。「（職員の）心理的安全性」というテーマに関心が多く寄せられていました。役職を問わず、安心して働ける、意見を言える雰囲気がある、がんばりすぎない、ミスをして乗り越えていける、認め合い、感謝しあえる……そんな風土を育てていきたいという思いは、法人が違えど同じ。方法はひとつではありませんが、そうした視点を持ってチームビルディングを行っていこう、という大切な初めの一步を学びました。全国会議終了後、「心理的安全性」というキーワードは、カリヨンの職員間では、流行語になっているとか、いないとか……！



なお、子どもシェルター全国ネットワーク会議が公益財団法人パブリックリソース財団と共に取り組む『子どもシェルター新設事業第2フェーズ』が、休眠預金等活用支援事業2025年度通常枠として採択されました。2026年～2028年度の3年間をかけて、新たな子どもシェルターの開設を目指す団体に、資金・ノウハウの両面からの伴走支援を実施します。団体の募集は、2025年12月頃からパブリックリソース財団のHP等で案内が始まります。ご関心をお寄せいただき、お近くに「子どもシェルターを作りたい！」とお考えの団体がありましたら是非この情報をシェアしていただければ幸いです。

全国自立援助ホーム協議会

万博の閉幕というニュースを挟んで、2025年10月23日～24日には、全国自立援助ホーム協議会の全国大会「つなぐ、つながる～地域に根差し、"わたし"に寄り添う～」が大阪で開催され、こちらにもカリヨンから職員、理事らが出席しました。全国自立援助ホーム協議会には全国から390軒を超える自立援助ホームが加盟しておられます。このたびの全国大会は第30回記念大会として、300名を超える参加者があったということです。研修に、交流に、たいへん充実したものでした。児童相談所に相談するということにすらたどりつかない要保護児童の存在、ホーム利用者の傷ついたところの回復、ホームを巣立っていった若者たちと切れ目なく支援するパーマネンシーの保障など、自立援助ホームという実践から浮かび上がる課題とそれに対する取組みが報告、提案されていました。

分科会のひとつにて、IFCA（NPO法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス）より自立援助ホームの元利用者として言葉を届けてくれた若者たちがいました。その中には、かつてカリヨンと関わった方もおられました。登壇を知らなかったカリヨン職員らは、会場で「え！どうしてここにいるの！」とびっくり。職員や関係者が集う機会に、ご自身の思いを伝えてくれることに感謝の気持ちでいっぱいでした。

朝日新聞厚生文化事業団 「未来まなび応援金」

カリヨンが朝日新聞厚生文化事業団と一緒に運営する「(旧)まなび応援金」が「未来まなび応援金」としてリニューアルしました。全国子どもシェルターと自立援助ホームの利用者、元利用者で高校生の方に応援金をお届けする制度で、この事務局もカリヨンが担っています。

2025年10月1日～31日がリニューアル後初めての受付期間でした。300件を超えるお申込みがあり、そのすべてに目を通し、事業団、カリヨン、シェルターネット、全国自立援助ホーム協議会などの代表者からなる運営委員会を開催しました。

「高校卒業後の進路を考えるため、大学のオープンキャンパスに行く計画を立てている。そのために交通費が必要です」、「修学旅行の旅費は公費で出られるけれど、そのための鞆などを準備したり、修学旅行中のアクティビティに参加する費用は自己負担なので、応援金を使わせてほしい」等、高校生の皆さんそれぞれの目標、応援金を受け取ったらどのように活用したいのか、というお声がたくさん届いています。

日本子ども虐待防止学会 JaSPCAN ほっかいどう大会

2025年11月15日～16日は、札幌にて日本子ども虐待防止学会JaSPCAN ほっかいどう大会の開催があり、子どもシェルター全国ネットワーク会議として、パネル展示と公募シンポジウム「子どもシェルターにおける第三者評価 ～子どもシェルターの現在と未来～」を実施しました。全国から児童福祉関係者があつまる大きな学会にて、子どもシェルターの活動の"今"を発信しました。

例年秋には、このように全国の仲間たちと交流する機会、学びの機会が目白押しです。日頃の活動現場を離れ、課題の共有や新しい情報に触れ、思いを高めて戻ってきます。引き続き、各所で真摯に活動してまいります。どうぞ皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



編集後記

立冬も過ぎ、朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。News Carillon 58号をお届けします。

巻頭言に一部をご紹介したとおり、カリヨン子どもセンター20周年記念誌はこれまで関わってくださったみなさまからの投稿を取りまとめ鋭意作成中です。

今号は各ホームから日々の生活と離れた「非日常」のイベントの楽しい報告の特集となりました。

また、本文にもあります通り、9月の「子どもシェルター全国ネットワーク会議」10月の「全国自立援助ホーム協議会」10月の「日本子ども虐待防止学会ほっかいどう大会」には職員をはじめ理事や子ども担当弁護士も加わり、共にさまざまな学びを深める機会を持つことができました。これらの学びを日々の支援に役立てていきたいと思っております。

寒さに向かいます折から、みなさまにはくれぐれもご自愛の上、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。(T.Y)

News Carillon No.58

本誌は、社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局が責任を持って編集、発行しています。本紙に関するご意見、ご要望、掲載を希望する情報などがありましたら、下記までご連絡ください。

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

東京都北区赤羽西3-33-3

TEL 03-6458-9120 FAX 03-6458-9121

2025年11月30日発行(無断転載はご遠慮ください)